

DAIFUKU

Material Handling and Beyond



新緑の滋賀事業所

株式会社ダイフク

BUSINESS REPORT

第96期 報告書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

証券コード

6383

自動車工場向けなどが回復、売上高が大幅増



代表取締役会長
竹内 克己

代表取締役社長
北條 正樹

当連結会計年度における世界の経済は、ギリシャに端を発した欧州債務危機や米国の景気減速懸念、新興国の景気調整などにより、景気後退局面への懸念が強まっていました。わが国の経済も、東日本大震災、タイの大洪水、歴史的な円高や外需の不透明感を背景に、先行きについては、慎重な見方が大勢を占めました。

当業界におきましては、国内では東日本大震災からの復旧需要などが見られましたが、総じて需要回復力の弱い事業環境が続いております。

Q1 平成24年3月期の業績はどうでしたか？

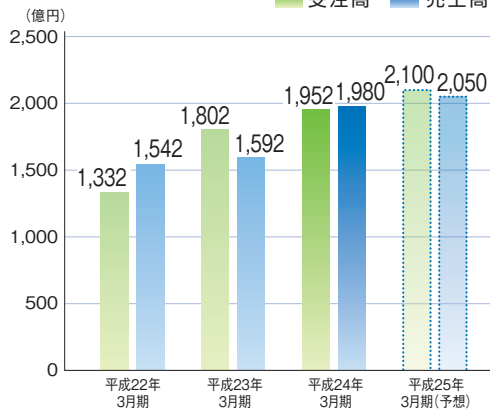
当社グループの業績は、全社あげての努力の結果、前連結会計年度に引き続き、リーマン・ショック後の落ち込みから着実に回復いたしました。

この結果、受注高は1,952億17百万円(前年同期比8.3%増)、売上高は1,980億52百万円(同24.4%増)を計上いたしました。

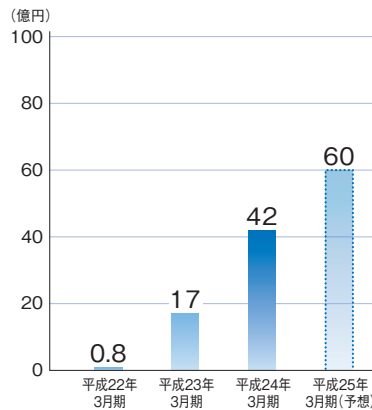
利益面につきましては、営業利益では量の回復やサービスビジネスの底堅さ、第4四半期の好調な売上が寄与し、経常利益では円高による為替換算損、当期純利益では保有株式の時価評価損、税制改正による繰延税金資産の取り崩しによる影響をそれぞれ受けましたが、期末にかけての円安・株価上昇に伴い、それぞれの影響額は従来予想より減少しております。

財務ハイライト

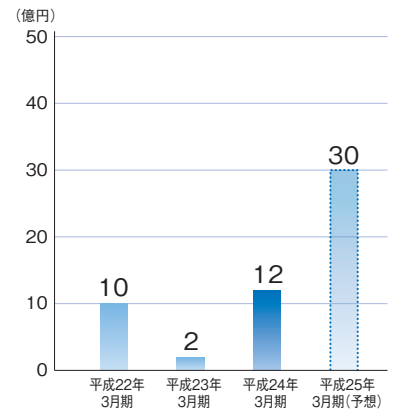
受注高・売上高



営業利益



当期純利益



この結果、営業利益は42億17百万円(同144.3%増)を、経常利益は40億22百万円(同199.0%増)を、当期純利益は12億23百万円(同354.1%増)をそれぞれ計上いたしました。

「ボウリング」編

ここでも活躍ダイフク製品

設備だけでなく、シューズやバック、「曲がり大きい」ボールなどの個人的なボウリング用品も手がけています。



[ご参考]

<http://www.dqa.co.jp/>

Q2 業績が回復した要因は？

リーマン・ショック後、急減した量(受注・売上)が戻り、それに伴って利益も改善しました。特に、自動車業界の新興国や北米での設備投資需要、半導体業界の微細化加工対応ニーズ、空港手荷物搬送システムおよび洗車機部門における企業買収による枠組み拡大などが受注・売上に寄与しました。

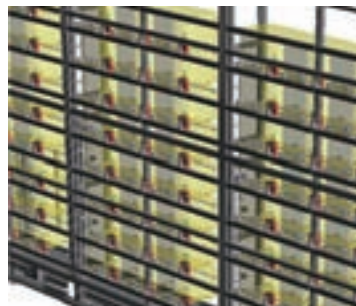
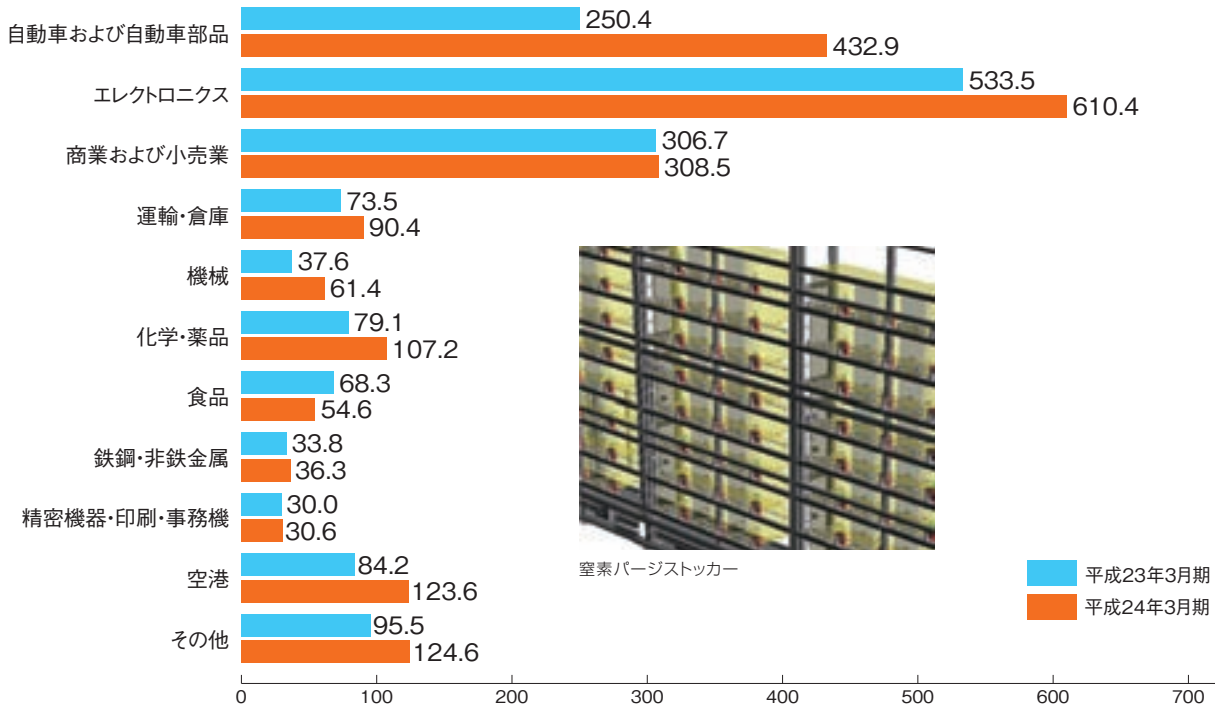
自動車生産ライン向けシステムは、リーマン・ショック後、回復が遅れていましたが、当期は北米や新興国向けを中心に受注が戻り、国内やメキシコでも大型案件を受注しました。また、開発に力を入れてきた成果として、組立ラインや塗装ラインでそれぞれ新しい搬送システムを受注しています。

売上面は、ブラジル・タイ・中国・インドネシア・インド向けが多く、5月、8月、正月の各国内連休工事も寄与して、前年を大きく上回りました。

半導体工場向けシステムでは、携帯情報端末やサーバー用半導体の需要増大による設備需要や微細化加工ニーズに対応した「窒素パージストッカー」などにより、韓国や北米で着実に受注を獲得しました。

半導体工場向けシステムの売上は韓国や北米向け案件が堅調に推移し、液晶パネル工場向けは国内や台湾向け案件の売上を計上しました。

■連結業種別売上高 (単位:億円)



窒素パージストッカー

■ 平成23年3月期
■ 平成24年3月期

Q 3 昨年発生したタイの洪水への対応は？

当社グループの生産拠点であるダイフク・タイランドは、幸い洪水の被害を受けませんでした。浸水被害に遭われた Honda Automobile (Thailand) Co., Ltd. 殿の生産設備の復旧に対しては、国内からも現地での生産や工事に支援部隊を派遣してピーク時で400人超／日、延べ1万数千人が、復旧工事に取り組みました。計画を前倒して工事を短期間で完遂し、3月下旬の早期生産再開に貢献したことで、お客さまから高い評価をいただきました。

当社の良きDNAである現場力の強さ、結束力の固さを継承し、今後もさまざまなプロジェクトにおいて発揮していきます。



Honda Automobile (Thailand) 殿

Q 4 平成25年3月期の方針は？

「グローバル市場での持続的成長の基盤を作り、世界のマテハン業界の発展を牽引する企業を目指す」を基本方針として、特に案件の入口(引き合い情報対応)、進行途上、出口(引渡し)という3つの段階で以下の管理を徹底し、収益性を高めてまいります。また、新たな付加価値創出策として、サービス事業のメニュー拡大、ICT(情報通信)技術の活用にも努めます。

① 選択と集中～マーケティング機能アップ

市場が世界に広がる中、現地法人等の足がかりのない地域での案件も増えております。ビジネスリスクや個別ユーザーの状況を精査した上で、取り組むべきと判断した市場に対して、経営資源を集中します。

② 生産性向上とコストダウン

工場内でのコストダウンはもちろん、納入後に顕在化する不具合の削減に努めます。また、キャッシュ・フロー重視の経営の原点に戻り、前受金をいただくことなど支払条件の改善にも取り組みます。

③ プロジェクト進捗管理の再構築

近年、新市場案件や海外の大型プロジェクトが増加しており、その進捗管理が収益上からも非常に重要になっています。専門の部署を新設して全社的に体制を再構築し、受注から引渡しまで原価・品質・工程等を一貫してコントロールしていきます。

株式会社ダイフク

北米やアジア、新興国向けが順調

受注面では、食品業界、医薬品業界、医薬卸業界、農業、流通業界向けなどの大型案件が堅調に推移しました。これらの分野では年々、海外案件が増えており、韓国、ロシア、インドネシア、スペインなどで受注を獲得しました。

半導体工場向けシステムでは、微細化加工ニーズにマッチした「窒素パージストッカー」の韓国や北米案件が順調に進捗しました。液晶パネル工場向けシステムの需要は、従来の大型テレビ用からスマートフォンや携帯情報端末向け中小型にシフトしました。

自動車生産ライン向けシステムは、当期は北米や新興国向けを中心に受注が戻り、国内やメキシコでも大型案件を受注しました。

売上面では、食品、医薬品、医薬卸、流通、農業などの幅広いお客さま向け保管・搬送・仕分け・ピッキングシステムの大型案件が堅調に推移しました。

半導体工場向けシステムは韓国や北米向け案件が堅調に推移し、液晶パネル工場向けは国内や台湾向け案件の売上を計上しました。

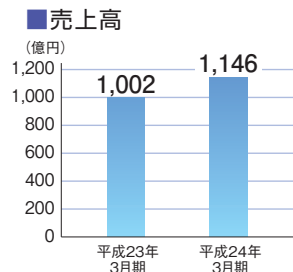


食品スーパーの大型物流センター

自動車生産ライン向けシステムはブラジル・タイ・中国・インドネシア・インド向けなどの売上が多く、5月、8月、正月の各国内連休工事も寄与して、前年を大きく上回りました。また、タイの洪水復旧工事を短期間で完遂したことも貢献しました。

洗車機は、事業買収効果やサービスステーション市場での入れ替え需要の活発化などが奏功し、期初からの好調さを持続しました。

利益は第4四半期連結会計期間の好調な売上、経費削減、子会社からのロイヤリティ売上等が寄与しました。



株式会社コンテック

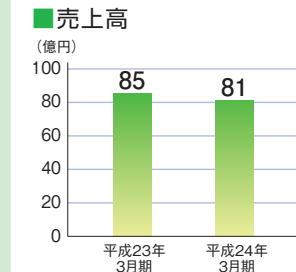
期初に東日本大震災の影響

デバイス&コンポーネント製品では、期初は東日本大震災の影響を受けたものの、年度末にかけて、生産設備や検査装置向けの拡張ボード系機器の販売が堅調に推移しました。また、公共施設や店舗設備向け無線LAN製品の販売が好調に推移しました。

ソリューション&サービス製品では、電力遠隔監視システムの販売が好調な一方、太陽光発電データ計測システムは低調でした。また、新たに医療機関向けに、ベッドサイド情報端末の販売を開始しました。システム製品では、経済成長著しい中国市場の開拓を進めました。国内は、自動車関連向けシステムの販売が回復に至りませんでした。



ベッドサイド情報端末

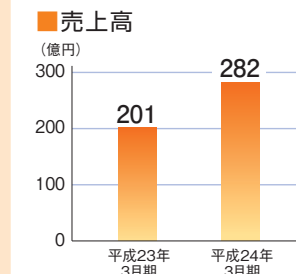


DAIFUKU WEBB HOLDING COMPANY (DWHC)

自動車生産ライン向けおよび半導体業界向けが好調

受注面では、自動車生産ライン向けシステムで、北米・中南米での設備投資が活発になったことが寄与し、また半導体業界向けシステムで、携帯情報端末やサーバー用半導体の需要増大による設備需要や微細化対応の「窒素パージストッカー」などにより着実に受注を獲得するなど好調でした。空港手荷物搬送システムはメーカー決定が遅れるなどの影響を受けました。自動車業界、食品関連業界向けには、無人搬送車の積極的な営業が奏功しました。

売上面でも、自動車およびその関連業界向け、半導体業界向けが大きく伸びました。



総資産

1,850億49百万円

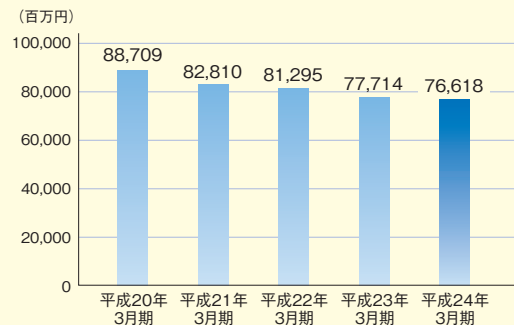
受取手形・完成工事未収入金等が増加しました。



純資産

766億18百万円

配当金の支払い、保有する有価証券や為替の変動等の影響を受けました。



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当期末 (平成24年3月31日)	前期末 (平成23年3月31日)
資産の部		
流動資産	129,942	107,218
固定資産	55,107	56,170
有形固定資産	30,430	31,580
無形固定資産	4,874	5,045
投資その他の資産	19,802	19,543
資産合計	185,049	163,388
負債の部		
流動負債	67,998	41,309
固定負債	40,432	44,364
負債合計	108,431	85,674
純資産の部		
株主資本	82,013	82,454
資本金	8,024	8,024
資本剰余金	9,028	9,028
利益剰余金	67,382	67,819
自己株式	△ 2,421	△ 2,417
その他の包括利益累計額	△ 7,352	△ 6,828
その他有価証券評価差額金	247	△ 482
繰延ヘッジ損益	11	△ 32
為替換算調整勘定	△ 7,611	△ 6,313
少数株主持分	1,956	2,088
純資産合計	76,618	77,714
負債純資産合計	185,049	163,388

連結損益計算書

(単位：百万円)

	当期 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前期 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
売上高	198,052	159,263
売上原価	165,505	131,639
売上総利益	32,546	27,623
販売費及び一般管理費	28,328	25,897
営業利益	4,217	1,726
営業外収益	872	1,009
営業外費用	1,067	1,390
経常利益	4,022	1,345
特別利益	4	58
特別損失	898	701
税金等調整前当期純利益	3,129	703
法人税、住民税及び事業税	1,540	1,157
法人税等調整額	300	△ 957
少数株主損益調整前当期純利益	1,288	503
少数株主利益	65	233
当期純利益	1,223	269

連結キャッシュ・フロー計算書

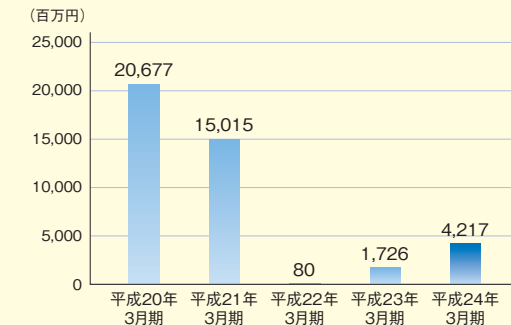
(単位：百万円)

	当期 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前期 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,187	11,417
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,039	△ 3,616
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,709	△ 6,056
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 717	△ 1,172
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 2,234	571
現金及び現金同等物の期首残高	31,672	31,101
現金及び現金同等物の期末残高	29,438	31,672

営業利益

42億17百万円

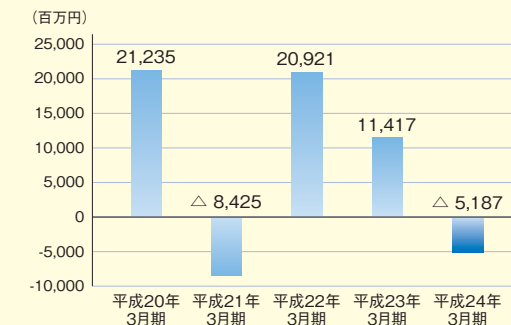
量の回復、サービスビジネスの底堅さが寄与しました。



営業活動によるキャッシュ・フロー

△51億87百万円

売上債権の増加による支出が影響しました。



株主ご優待新設 ボウリングで健康増進!

株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、中長期的に当社株式を保有していただける株主様の増加を図ることを目的とし、株主優待制度を新設いたしました。

当社は昭和38年(1963年)よりボウリング設備や用品を手がけており、また、社会貢献の立場からもボウリングを通じての健康増進を呼びかけております。全国300カ所以上の当社設備・用品納入ボウリング場でのゲーム等にご利用いただける割引金券を贈呈いたします。

毎年3月末日の当社株主名簿に記録された1単元(500株)以上の当社株式を保有されている株主様に対し年1回贈呈いたします。

「株主ご優待の方法」「ご利用可能センター一覧」は、当社ホームページ<http://www.daifuku.co.jp/ir/>にも記載しております。



※平成24年3月31日現在に記録された、1単元(500株)以上の当社株式を保有されている株主様には本報告書と同封にてお送りしております。

高齢者が要介護になる原因の3割は、からだの動きを担当する組織・器官(運動器)の機能低下です。ボウリングの片手・片脚を伸ばす投球動作や助走は、足腰の筋肉を鍛えるトレーニングと共通しています。筋肉の萎縮防止や転倒予防にも大きな効果があるボウリングは、楽しみながら健康づくりができる最適なスポーツです。(“スロトレ”“筋肉博士”で注目の東京大学・石井直方教授談)

第5回「日に新た館」見学会のご案内

株主の皆様当社へのご理解を一層深めていただくよう、当社製品を一堂に集めた総合展示場「日に新た館」(滋賀事業所内)見学会を開催いたします。

対象者：平成24年3月31日現在、当社株式500株以上
をご所有の株主様
(同伴者は1名まで可、お子様の同伴は中学生以上とさせていただきます)

日時：平成24年10月12日(金) 10:00~16:00
集合・解散場所：JR琵琶湖線近江八幡駅、米原駅または直接「日に新た館」にご来館

(ご応募多数の場合は抽選とさせていただきます場合があります。抽選結果につきましては、当落にかかわらず書面でご連絡させていただきます)

応募方法：同封のはがきをご返送ください。

締切日：平成24年7月13日(金)

参加費：無料(集合・解散場所までの往復交通費は各自のご負担とさせていただきます)

昼食：日に新た館にてご用意しております。

お問い合わせ先

株式会社ダイフク IR室 TEL:06-6476-2552

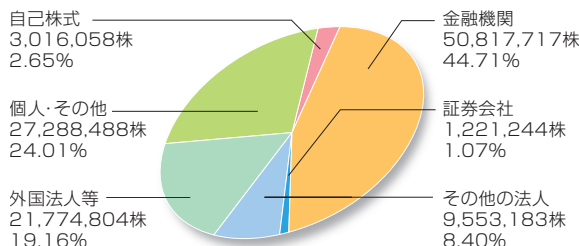
[日に新た館ホームページ] <http://www.daifuku.co.jp/hiniaratakan/ja/>

株式情報

(平成24年3月31日現在)

発行可能株式総数	250,000,000株
発行済株式総数	113,671,494株
株主数	11,568名

所有者別分布状況



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 6月開催
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

公告の方法 電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は日本経済新聞に掲載します。
公告掲載の当社ホームページアドレス
<http://www.daifuku.co.jp/ir/>

上場証券取引所 大阪第1部、東京第1部
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
事務取扱場所

第96期 期末配当金のお支払いについて

第96期期末配当金は、平成24年5月14日開催の取締役会にて、1株につき10円と決議しております。同封の「第96期期末配当金領収証」により、お支払いいたしますので、お近くのゆうちょ銀行全国本支店および出張所ならびに郵便局(銀行代理業者)で払渡期間(平成24年6月29日から平成24年7月27日まで)にお受け取りください。

なお、振込先をご指定の方には「第96期期末配当金計算書」および「配当金のお振込先について」を同封いたしますので、ご確認くださいませようお願い申し上げます。

上場株式配当等の支払いに関する通知書について

租税特別措置法の平成20年改正(平成20年4月30日法律改正第23号)により、当社がお支払いする配当金について、配当金額や徴収税額等を記載した「支払通知書」を株主様宛にお送りすることとなっています。(同封の「配当金計算書」が「支払通知書」を兼ねることになります。)

なお、「支払通知書」(同封の「配当金計算書」)は、株主様が確定申告をする際の添付資料としてご使用いただくことができます。

(株式数比例配分方式を選択されている場合は、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問い合わせください。)

(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎ (0120)176-417
(インターネットホームページURL)
<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

株式に関する住所変更等のお届出および照会について

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社では手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

DAIFUKU
Material Handling and Beyond

株式会社ダイフク

本社：〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島3-2-11 TEL: (06)6472-1261(代)

東京本社：〒105-0014 東京都港区芝2-14-5

TEL: (03)3456-2231(代)

<http://www.daifuku.co.jp>